

“大阪へ” 熾烈な戦い始まる

2週間前の再演を

いよいよ今年も総理大臣杯出場を懸けた戦いが始まる。初戦の相手は2週間前にリーグ戦で勝利したばかりの東海大。互いの手の内を知る相手となったが、去年の雪辱を晴らすべく熱い気持ちで時之栖に乗り込む。

前回のリーグ戦の時は両サイドハーフに素早く展開しようとする相手に対し、前線から激しくプレスをかけゲームを支配。結局、得点こそ8分の平野のゴールのみだったが、終始相手をよせつけず完勝となった。

相手がこの短い期間でチームの戦い方を大きく変えてくることは予想しづらい。ならば、駒大としては2週間

前の試合を“再演”できるかどうかがかぎとなってくる。特に前回の対戦でも効果を発揮していた前線からのプレスはこの試合の行方を左右するだろう。

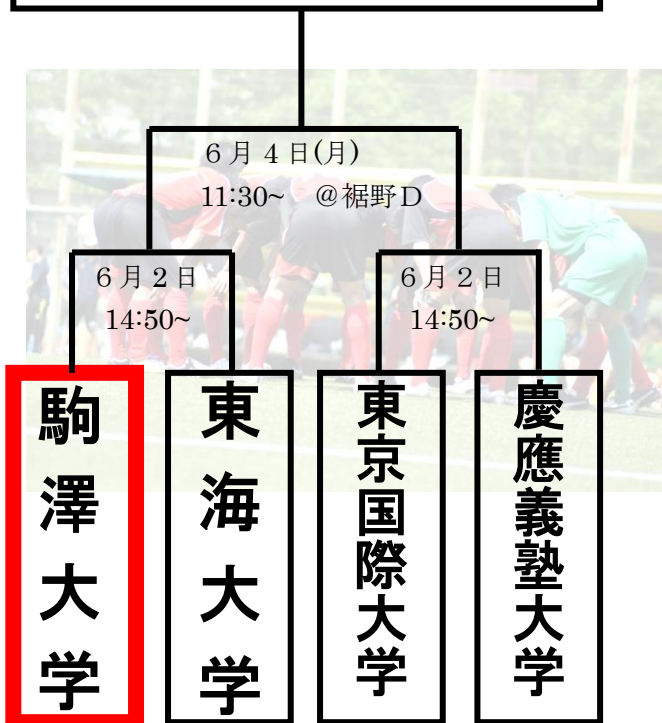
現在、リーグ戦は4連勝中と波に乗るだけにこの勢いを保ちたい。チームも「大臣杯は去年負けているので、リベンジも込めて絶対本選には出たい」(大石)、「(連勝の)流れを切らさず1発目からしっかり勝って1部を倒して全国を決めたい」(三澤主将)と気合十分。この後のリーグ戦での東洋大との首位攻防戦を気持ちよく迎えるためにも絶対に勝利が欲しいところ。

去年の雪辱に燃える駒大が前線からプレスをかけ、ボールを奪い、そのまま勝利も奪い取る。



VS東海大
 @時之栖スポーツセンター
 14:50 KICK OFF

本選行き決定!



法大戦で見せた“勝負強さ”は本物か



3-0。結果だけを見れば調子の上ってきた駒大が勢いそのままに快勝したように見える。しかし、この日の戦いは決して調子の良さだけではなかった。90分通してボールを支配される展開の

中でセットプレーとカウンターから効率よく3得点。“勝負強さ”も見せつけたのである。

「(流れの)悪い時間に失点しなかったことが全て」(三澤主将)。まさにこの言葉の通りだ。うまくいかずとも体を張ってゴールを守り、攻撃となれば全力で前線へ駆け上がる。今はチームの誰もが自分のやるべきことを遂行できている。「みんなが同じ方向を意識してやれている」(大石)と選手達も手応えを感じていた。

これから始まる総理大臣杯は一発勝負のトーナメント戦。結果だけが求められる舞台上で“勝負強さ”を発揮出来るかどうか。法大戦での戦いぶりが単発ではないことを証明する絶好の機会となる。

紙面編集：猪熊脩登